

重点目標		具体的取り組み		評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び 次年度への提言
1	専門性の向上	①	・夏期休業中にアセスメントの研修を行い、二学期以降に担当する児童生徒のアセスメントの実施を促す。客観的評価をもとにして実態把握をしたり、指導に活かしたりできるようにし、教員の専門性の向上を図る。	〔成果指標〕 アセスメントの実施の程度で評価する 3点：アセスメントを実施し、指導に活かした 2点：アセスメントを実施した 1点：アセスメントの研修会に参加した 0点：参加、実施しなかった	評価の合計点が A：31点以上 B：21～30点 C：15～20点 D：15点未満 〔達成目標B以上〕	研修会参加12名で12点 実施1名で2点 活かした3名で9点 合計23点 B	研修会は希望参加としたが、参加率は高かった。今年度が初めてということで、実施の仕方に重点を置いて行ったが、時間が足りずビネーの時間が短くなってしまった。検査自体は担当する児童生徒の実態にもよるため、実施者は4名にとどまった。来年度は、採点や集計の仕方について、演習形式での研修を実施し、レベルアップを図りたいと考えている。
学校関係者評価委員会の評価				アセスメントができるかできないかは、特別支援教育に携わる教員の専門性について、大変重要なポイントと考える。学校全体で、客観的な評価をもとにした実態把握のレベルアップに努めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				今年度は、検査の実施に重点が置かれたが、来年度は検査を実施するとともに、採点や集計の方法や検査結果の読み取り方についての研修を実施していきたい。			
2	地域交流の推進	①	・地域（特に門前地区）の方々に輪島分校の周知を高める活動を行う。児童生徒とともに清掃活動や施設訪問などのボランティア活動を行う。	〔努力目標〕 門前地区の事業所、商店を訪問し職場実習依頼をする。清掃活動や施設訪問などのボランティア活動を進路課が企画して行う。全学部での活動数をカウントし7回以上を目指す。	A：7回以上 B：6回 C：5回 D：4回	老人福祉施設へ2回 門前交流センターへ2回 ミニツリー配り1回 カーブミラー清掃1回 計6回 B	小学部は老人福祉施設でダンス発表を行い利用者とふれあうことができた。中・高等部は門前交流センターで地域の歴史について学習し、縄文土器の作成など普段体験できない学習を行った。高等部は手作りミニツリーを学校近隣の商店などに生徒自身で配布し地域の方々と会話することができた。今後、地域のイベントなどに積極的に参加し学校の存在をアピールすることも大事である。また、日常的にもっと町中に出る活動（委員会など）の工夫が必要と思われる。
学校関係者評価委員会の評価				地域との交流が小中高等部とも増え、子どもたちの育みを感じられる。回数だけを目的にするのではなく、内容を深めることも狙ってほしい。高等部生徒が自らミニツリーを配付して回ったことは、生徒を知ってもらう良い機会であった。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				行事での交流のほかに、日常的に関りが持てる高等部の作業班での清掃活動や生徒会委員会活動で、生徒の活動を知ってもらう機会を増やしていきたい。			

重点目標		具体的取り組み		評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び 次年度への提言
3	健康 教育・ 防災 教育	①	健康教育 ・児童生徒自身が体や健康に興味を持てるような、見て学び、実際に経験する体験型の保健指導を行う。	[成果指標] 保健指導後に、授業に参加した教員にアンケートを実施。（各学部3回） 4：よかった 3：まあまあよかった 2：やや不満 1：不満	3回のアンケート結果の平均値が A：4と3合わせて90％以上 B：4と3合わせて80％以上 C：4と3合わせて70％以上 D：4と3合わせて70％未満	アンケート17枚回収 4：13 3：4 2：0 1：0 4と3合わせて100％ 90％以上で A	小学部、中学部において月1回の保健指導ができた。高等部は3学期、集中的に2回実施した。計画的に実施した性教育では、心地よい体験を大切にし、それを積み重ねることで「快」「気持ちいい」の感覚が身についてきたように思う。また全体的に問題行動が減り、学校全体が落ち着いてきたと感じる。来年度も児童生徒に分かりやすく、楽しく、みんなで参加し体験できる保健指導や、計画的な性教育を実施していきたい。 また、年間指導計画も立てていきたい。
		②	防災教育 ・門前高校と合同での訓練を行い、両校の防災等についての協力体制を築く。	[成果指標] 合同訓練後に両校の教員からアンケートを取り、より良い改善ができたかどうか測る。 4：改善された 3：まあまあ改善された 2：あまり改善されなかった 1：改善されなかった	アンケート結果が A：4と3合わせて80％以上 B：4と3合わせて70％以上 C：4と3合わせて60％以上 D：4と3合わせて60％未満	アンケート結果 4：0％ 3：70％ 2：18％ 1：0％ わからない：12％ 4と3あわせて70％ B	4月に実施した合同搜索訓練は、昨年度搜索を経験していることもあり、実施の意識が高くアンケートの評価も高かった。8月実施の不審者対応は、実施時期の検討と参加人数の確保が課題となった。10月実施の避難訓練は、同じ避難場所に集合し、点呼までを行っているが、更に進んで、避難の際に門前高校生に輪島分校の児童、生徒の誘導に協力してもらい、分校職員は車いす利用生徒等の搬送に多くの人員を配置することを検討していきたい。
学校関係者評価委員会の評価				健康教育について、学校全体で取り組んでいる「性教育」の成果が表れてきている。運動会でのふれあいフォークダンスも大変良い活動であった。防災教育は、門前高校との連携を図り、情報交換しながら進めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				体験型の保健指導や、わかりやすい性教育など、年間指導計画を立てて取り組んでいきたい。家庭と連携した健康教育の充実に取り組んでいく。門前高校との合同訓練にむけて、総務課・生活支援課・生徒指導課との役割分担、それぞれの児童生徒の動きなど連携できる事前委員会を設け、訓練の実施を図っていきたい。			
4	働 き 方 改 善	①	・教職員の働き方を見直し、より効率的な業務分担と協力体制を築く。	[成果指標] 中間と年度末に教員からアンケートを取り、より良い改善ができたかどうか測る。 4：改善された 3：まあまあ改善された 2：やや改善されなかった 1：改善されなかった	アンケート結果が A：4と3合わせて60％以上 B：4と3合わせて50％以上 C：4と3合わせて40％以上 D：4と3合わせて40％未満	アンケート結果 4：19％ 3：62％ 2：9％ 1：5％ わからない：5％ 4と3合わせて81％ A	アンケートの中間評価と比べて、「まあまあ改善された」から「改善された」に10％ほど移行した。教職員自らの中にも効率的に業務を行おうという意識が浸透してきている。昨年度と比較しても、月ごとの超過勤務時間は少なくなる傾向にある。だが「改善されなかった」という意見も依然として14％あり、担当業務によっては難しい現状もある。児童生徒の重度重複化も進んでいる現在、個に応じた指導と効率的な業務とのバランスを取ることが課題である。
学校関係者評価委員会の評価				輪島分校の働き方は、他の学校と比べても良好であるように感じる。小規模校ならではの困難性もあるかもしれないが、また意識をもつて進めてほしい。良い事例などは地域の学校にも紹介してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策				分掌業務のマニュアル化をさらに進めるとともに、教職員それぞれの業務改善の意識を高められるように、担当の見直しや効率化を考えていきたい。			

